(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2005-139804
(P2005-139804A)
(43)公開日　平成17年6月2日(2005.6.2)

(51)Int.Cl.[7]	F I			テーマコード（参考）
E04B 2/74	E04B	2/74	561M	
	E04B	2/74	531G	

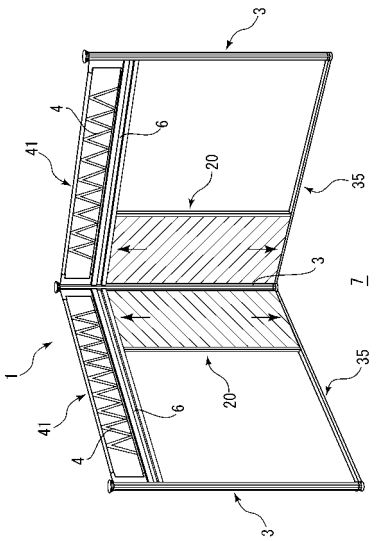
審査請求 未請求　請求項の数 5　OL　（全 12 頁）

(21)出願番号　特願2003-379154 (P2003-379154)
(22)出願日　平成15年11月7日 (2003.11.7)

(71)出願人　000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸２丁目７番１８号
(74)代理人　100098729
弁理士　重信　和男
(74)代理人　100116757
弁理士　清水　英雄
(74)代理人　100123216
弁理士　高木　祐一
(72)発明者　森谷　周平
神奈川県横浜市西区北幸二丁目７番１８号
株式会社岡村製作所内

(54)【発明の名称】共有空間構造体

(57)【要約】
【課題】　ポールを支持する大きなベース部材を用いることなく、共有空間構造体の安定強度を高めることができるとともに、共有空間を最大限利用可能な共有空間構造体を提供すること。
【解決手段】　上面視方形となるように少なくとも４本のポール３と４本のフレーム４１により最小共有空間構造体１が構成され、フレーム４１の下方には、各々の両端をポール３下部と連結した下部受材３５を設け、該下部受材３５とフレーム４１との間にパネル体２０を設けることにより、少なくとも下部受材３５とフレーム４１との水平状態を確保でき、且つ角部にあるポール３の垂直度が確保されるので、ポール３を支持する大きなベース部材を用いることなく、安定的に自立し且つ強度的にも充分な共有空間構造体１が構成されるとともに、該共有空間構造体１の占有敷設面を最小限に留め、共有空間を最大限利用可能とすることができる。
【選択図】　図８



【特許請求の範囲】
【請求項１】
共有空間構造体の外郭を画定する所定位置から立設したポールと、隣り合う前記ポールの上端にそれぞれ連結することで、ほぼ水平状態に支持されるフレームとの組み合わせから成る共有空間構造体であって、上面視方形となるように少なくとも４本のポールと４本のフレームにより最小共有空間構造体が構成されるとともに、該最小共有空間構造体の少なくとも１本のポールから夫々異なる方向に延びる左右のフレームの下方には、各々の両端をポール下部と連結した下部受材が設けられ、該下部受材とフレームとの間に、その上下端が下部受材とフレームとに当接するパネル体が設けられていることを特徴とする共有空間構造体。
【請求項２】
前記パネル体は周縁が矩形状の枠体で補強されているとともに、該パネル体下端には上下動可能な調整部材が設けられており、前記調整部材により前記パネル体を水平状態の前記フレームに当接できるようになっている請求項１に記載の共有空間構造体。
【請求項３】
前記下部受材は床面と接地しており、該下部受材には上方が開口する溝条が設けられ、該溝条に前記調整部材の下端が嵌合できるようになっている請求項１または２に記載の共有空間構造体。
【請求項４】
前記パネル体上端には連結片が設けられており、該連結片を用いてフレームに前記パネル体上端部を固定できるようになっている請求項２に記載の共有空間構造体。
【請求項５】
共有空間構造体における隣り合うポールとフレーム、そして下部受材とで囲まれた面を、左右方向に並ぶ複数のパネル体により閉塞するようにした請求項３に記載の共有空間構造体。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、共有空間構造体の外郭を画定する所定位置から立設したポールと、隣り合う前記ポールの上端にそれぞれ連結することで、ほぼ水平状態に支持されるフレームとの組み合わせから成る共有空間構造体に関する。
【背景技術】
【０００２】
近年、オフィス等のオープン化を図り、コミュニケーションを活発化させるということが唱えられ初められており、一般に、天井から床まで柱を立てて、柱の間を壁で覆うようにして部屋を造るようにしたもの、或いはパーティションにより空間を間仕切り所要のスペースを得るようにしたもの等が従来より知られている。
【０００３】
本出願人は、これらはオフィス等のオープン化によるコミュニケーションの活発化という目的を達成するための解放された空間構造体として、床の所定位置にベース部材を設置し、それぞれのベース部材にポールを立設させ、互いのポールの上端にフレーム部材を係合させ、フレーム部材をほぼ水平状態に支持させることにより、それ以外の外部空間と充分開放された関係で連接している構造体（以下、共有空間構造体と定義する。）を提案している（例えば、特許文献１参照。）。
【０００４】
【特許文献１】特開２００２－１３８６９３号公報（段落００１１、第１図）
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、特許文献１にあっては、ポールを立設させフレームをほぼ水平状態で安

定して支持するために、ベース部材はポールが自立可能な程度の大きさとなっているため、共有空間構造体内のワークスペースの床面にテーブルやイスを配置する場合や、ポール周辺を移動する際に邪魔になることがあった。

【０００６】

本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、ポールを支持する大きなベース部材を用いることなく、共有空間構造体の安定強度を高めることができるとともに、共有空間を最大限利用可能な共有空間構造体を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

上記課題を解決するために、本発明の請求項１に記載の共有空間構造体は、共有空間構造体の外郭を画定する所定位置から立設したポールと、隣り合う前記ポールの上端にそれぞれ連結することで、ほぼ水平状態に支持されるフレームとの組み合わせから成る共有空間構造体であって、上面視方形となるように少なくとも４本のポールと４本のフレームにより最小共有空間構造体が構成されるとともに、該最小共有空間構造体の少なくとも１本のポールから夫々異なる方向に延びる左右のフレームの下方には、各々の両端をポール下部と連結した下部受材が設けられ、該下部受材とフレームとの間に、その上下端が下部受材とフレームとに当接するパネル体が設けられていることを特徴としている。

この特徴によれば、共有空間構造体は、角部のポールと左右のフレームと下部受材とで構造が安定化するのみでなく、左右の下部受材と左右のフレームとの間に上下に張られたパネル体によって、少なくとも下部受材とフレームとの水平状態を確保することによって、角部にあるポールの垂直度が確保され、ポールを支持する大きなベース部材を用いることなく、安定的に自立し且つ強度的にも充分な共有空間構造体が構成され、共有空間構造体の占有敷設面を最小限に留め、共有空間を最大限利用可能とすることができる。

【０００８】

本発明の請求項２に記載の共有空間構造体は、請求項１に記載の共有空間構造体であって、前記パネル体は周縁が矩形状の枠体で補強されているとともに、該パネル体下端には上下動可能な調整部材が設けられており、前記調整部材により前記パネル体を水平状態の前記フレームに当接できるようになっていることを特徴としている。

この特徴によれば、矩形状の枠体によって周縁の強度を高めたパネル体の下端位置に設けられた調整部材を調整することによってパネル体を上下動させ、フレームとパネル体上端との隙間の調整を行いながら、パネル体の上端をフレームに当接させるため、当接荷重を均等にできるばかりか、パネル体の取付作業も容易となる。

【０００９】

本発明の請求項３に記載の共有空間構造体は、請求項１または２に記載の共有空間構造体であって、前記下部受材は床面と接地しており、該下部受材には上方が開口する溝条が設けられ、該溝条に前記調整部材の下端が嵌合できるようになっていることを特徴としている。

この特徴によれば、調整部材の下端を下部受材の溝条に嵌合させるだけで、パネル体の設置場所の位置合わせの調整を行う必要がなく、パネル体を容易に下部受材に取り付けることができるとともに、調整部材の嵌合により下部受材からパネル体が外れる恐れもない。

【００１０】

本発明の請求項４に記載の共有空間構造体は、請求項２に記載の共有空間構造体であって、前記パネル体上端には連結片が設けられており、該連結片を用いてフレームに前記パネル体上端部を固定できるようになっていることを特徴としている。

この特徴によれば、連結片がフレームに位置固定されることで、パネル体が安易に移動したり、取り外れてしまうことがなく、安定してフレームを支持できる。

【００１１】

本発明の請求項５に記載の共有空間構造体は、請求項３に記載の共有空間構造体であって、共有空間構造体における隣り合うポールとフレーム、そして下部受材とで囲まれた面

を、左右方向に並ぶ複数のパネル体により閉塞するようにしたことを特徴としている。
この特徴によれば、ポールとフレームと下部受材とで囲まれた面を複数のパネル体によって閉塞することで一枚の壁面として構成されるので、ポールの垂直度と、フレームや下部受材の水平度を保つことができ、共有空間構造体の自立安定度をさらに高めることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１２】
本発明の実施例を以下に説明する。

【００１３】
以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明すると、まず図１にはワークスペースとして構築した共有空間構造体１の全体図が示されており、この共有空間構造体１は、主にポール３（この実施例では６本示されており、３ａ、３ｂ、３ｃ、３ｄ、３ｅ、３ｆとする）と、フレーム４１と、一部に下部受材３５とが組み合わされて構築されている。

【００１４】
本実施例のフレーム４１は、主に補強部材としての第１フレーム部材４と、後述するように補強および案内レールそしてパネル支持部として機能する第２フレーム部材６から構成されている。

【００１５】
共有空間構造体１を構成する最小共有空間構造体の単位は、図１に示されるように、４本のポール３ａ～３ｄと、４本のフレーム４１と、下部受材３５から成る空間構造体が、それ以外の外部空間と充分開放された関係で連接できる構造体（最小共有空間構造体）であることをいう。さらに最小共有空間構造体に２本のポール３ｅ、３ｆと、３本の第１フレーム部材４、３本のフレーム４１、下部受材３５から成る空間構造体を連接することで、共有空間構造体１’が共有空間構造体１に接続されるように構成されている。

【００１６】
即ち、本実施例の共有空間構造体１ではポール３ａ、３ｂ及びフレーム４１で囲まれた部分、ポール３ｂ、ポール３ｃ及びフレーム４１で囲まれた部分及び、上部の４本のフレーム４１で囲まれた部分、の３箇所の部分が外部空間と開放された関係で連接され、ポール３ｄ、ポール３ｃ及びフレーム４１で囲まれた部分が隣接する共有空間構造体１’に連接され、共有空間が拡張されている。

【００１７】
ポール３ａ、３ｄ及びフレーム４１、下部受材３５で囲まれた部分、ポール３ｄ、３ｅ及びフレーム４１、下部受材３５で囲まれた部分、ポール３ｅ、３ｆ及びフレーム４１、下部受材３５で囲まれた部分には、それぞれパネル体２０ａ、パネル体２０ｂ、パネル体２０ｃからなるパネル体２０が設けられていて、共有空間構造体１、１’の一部が閉鎖的な形になっているが、パネル体２０の調設は自由である。

【００１８】
また、対角に位置する対向する２本のポール３間には、後述する線材４０が２本交差するように掛け渡されており、共有空間構造体１、１’のそれぞれの上面視方形を構成する４本のフレーム４の補強部材となっている。

【００１９】
また、共有空間構造体１、１’の床面７にはテーブル５０と椅子５２が配置され、ポール３ａ、３ｂ、ポール３ｄ、３ｃ、ポール３ｅ、３ｆ間の第１フレーム部材４には照明灯５１が設けられており、例えば、パネル体２０に資料やグラフを貼付したり、テーブル５０で作業をしたりと、共有空間構造体１の使用目的に応じて、付属物を配設し使い勝手の良いものにすることができるようになっている。

【００２０】
なお、本実施例では最小単位の共有空間構造体を構成する共有空間構造体１、１’を組み合わせて共有空間の広さを拡張しているが、利用する共有空間構造体の広さに応じて、これら最小共有空間構造体を複数組み合わせれば良い。

【００２１】
次に、本実施例で使用されている共有空間構造体１の具体的な構造について説明する。図２にはポール３ａ、フレーム４１の一部である第１フレーム部材４及び第２フレーム部材６、下部受材３５、端部連結部材３０、アジャスタ２の分解組立図が示されている。第１フレーム部材４は、中空管のアッパービーム４ａとローワビーム４ｂとを中間材４ｃの上下端にそれぞれ溶接して構成されている。第２フレーム部材６は、上端に上向凹溝６ｃ、下端に下向凹溝６ｄがそれぞれ長手方向に形成されており、長手方向の側面にパネル体２０を固定するためのネジ受溝６ｅが形成され、端部の上下にボルト孔６ｆが形成されている。

【００２２】
アッパービーム４ａとローワビーム４ｂの端部には、ボルトを介して止着部材１２が取り付けられ、止着部材１２は、下方に延出しており、ここに第２フレーム部材６がボルト孔６ｆにボルト止めされ、第１フレーム部材４と第２フレーム部材６は一体となりフレーム４１が構成される。

【００２３】
このフレームをポール３ａに取り付けるには、図３（ａ）に示されるように、ポール３に形成される溝部９の上端から取付材１１を下方に挿通させていき、取付材１１の頭部に形成された係止頭部１１ａがポール３ａの上端に引っ掛かるまで挿通させる。そして、止着材１２を取付材１１に形成される螺合孔（図示略）を利用して、ボルト（図示略）を締めることで、ポール３ａ形成される係止片１０が取付材１１と止着部材１２とで挟持されて、ポール３ａの上部にフレームが取り付けられる。

【００２４】
図２に示されるように、下部受材３５の上端には長手方向に溝条３５ａが形成され、この下部受材３５の端部には、Ｌ字に形成された止着部材３７がボルトを介して取り付けられている。この下部受材３５をポール３ａに取り付けるには、図３（ｂ）に示されるように、ポール３の溝部９の下端から下部受材３５を上方に挿通させ、止着材３７を取付材３６に形成される螺合孔（図示略）を利用して、ボルトを締めることで、ポール３に形成される係止片１０が取付材３６と止着部材３７とで挟持されて、ポール３ａの上部に下部受材３５が取り付けられる。

【００２５】
図２に戻り、ポール３ａの中心部には雌ネジ部３Ｘが形成されており、ポール３ａの下端側からアジャスタ２のネジ部材２ａを雌ネジ部３Ｘに螺合させることでアジャスタ２が取り付けられポール３ａの高さ調整が行えるようになっており、床面７が多少変形或いは傾斜していても常にフレームを水平状態に維持できるように構成されている。

【００２６】
また、ポール３ａの上端側からカバー部材（図示略）の下部に形成された螺合雄ネジ（図示略）を雌ネジ部３Ｘに螺合させることでカバー部材が取り付けられ、取付材１１の係止頭部１１ａがカバー部材によりおさえられ、第１フレーム部材４の上方への抜け出しが阻止できるようになっている。

【００２７】
ポール３ａに取り付けられた取付材１１と取付材３６の間の溝部９には、端部連結部材３０が係合されており、この端部連結部材３０は後述するパネル体２０を案内及び閉鎖するためのものであり、この端部連結部材３０の取付構造について以下に詳述する。

【００２８】
図４に示されるように、本実施例のポール３ａの断面形状は、円周に外側部が若干拡がった略Ｕ字状の８つの溝部９が上下方向に延びており、各溝部９の外方を向く開口９ａの左右両側に、遊端が互いに向き合って離間する左右の係止片１０により溝部９の一部が覆われている。本実施例において溝部９は円柱状のポールに形成しているため、比較的多くの溝部９を形成でき、そのために第１フレーム部材４の取付け方向が選択できる。また、ポール形状は円柱状と限らず、例えば四角柱状のもので４つの溝を形成するようにしたも

のであってもよい。

【００２９】

端部連結部材３０は、弾性を有する硬質樹脂から構成される硬質部３０ａと、弾性を有する軟質樹脂から構成される軟質部３０ｂとが２色成形法で一体成形されており、硬質部３０ａは先端が４股のフォーク状に延出しており、内方の２股の先端には外方に向くように係止爪３０ｃが形成され、外方の２股の先端は内方の２股よりも若干短くなっている。

【００３０】

ポール３ａの溝部９に端部連結部材３０を取り付ける際には、硬質部３０ａの係止爪３０ｃを開口９ａに向けて強く押圧して嵌め込むことで、係止片１０が内方２股の係止爪３０ｃと外方２股の先端に挟持され、端部連結部材３０が溝部９に固定される。一方、軟質部３０ｂは、パネル体２０の側端枠２４に形成された溝条２４ｂに収納される程度の大きさで形成されており、外圧が加えられると弾性変形可能になっており、外圧から解放されると元の形状に弾性復帰するようになっている。

【００３１】

このように、端部連結部材３０に軟質部３０ｂが設けられることで、共有空間構造体１の枠体に取り付けられた際に、パネル体２０の側端枠２４が軟質部３０ｂによって保護されるようになっている。

【００３２】

以上のように、フレーム４１、下部受材３５、端部連結部材３０、アジャスタ２のポール３ａへの組付構造を説明をしたが、同様に他の複数のポール３ｂ、３ｃ、３ｄ、３ｅ、３ｆにも同様の手順により、これら各種部材（フレーム４１、下部受材３５、端部連結部材３０、アジャスタ２）の取り付けを行うことで、共有空間構造体１を構成することができる。

【００３３】

次に、共有空間構造体１に設けられたパネル体２０の説明をパネル体２０ａを例として以下に説明する。なお、パネル体２０ｂとパネル体２０ｃはパネル体２０ａと略同様の構成のため説明を省略する。

【００３４】

図５（ａ）に示されるように、パネル体２０ａは、パネル板２２と、パネル板２２の周縁を構成する４本の枠体である上端枠２５、下端枠２６、左右の側端枠２４と、これら４本の枠体のコーナ部を連結する４つのコーナ連結部材２７から構成されている。

【００３５】

コーナ連結部材２７は、矩形状のパネル板２２の４箇所のコーナ部にそれぞれ装着されるもので、パネル板２２外周の４辺に装着される上端枠２５、下端枠２６ないし左右の側端枠２４の端部同士を連結するようになっている。そこで、パネル体２０ａの外周縁を構成する枠体である上端枠２５、下端枠２６、左右の側端枠２４の連結構造を図５（ｂ）を用いて詳しく説明する。

【００３６】

コーナ連結部材２７の交差する両端に形成された連結棒２７ｂは、それぞれ上端枠２５と側端枠２４の端部に形成される接続穴２５ｃ、２４ｃに嵌入可能に形成されている。嵌入された連結棒２７ｂは、上端枠２５と側端枠２４に形成された２つの挿通孔（図示略）を介して挿通した連結ボルト２７ｅを連結棒２７ｂに形成される螺合孔（図示略）螺着することで上端枠２５と側端枠２４がコーナ連結部材２７を介して連結される。同様に下端枠２６と側端枠２４との連結も、コーナ連結部材２７を介して連結される。

【００３７】

そこで、図５（ａ）、（ｂ）に示すように、これら連結された上端枠２５、下端枠２６ないし左右の側端枠２４、コーナ連結部材２７の内面側には、パネル板２２を取り付けるためのパネル溝２５ａ、２６ａ、２４ａ、２７ａが形成されており、パネル板２２の４辺がこれたパネル溝２５ａ、２６ａ、２４ａ、２７ａに嵌合されることでパネル板２２が取り付けられおり、パネル板２２の外周縁を保護するための枠体が構築されるようになって

いる。

【００３８】

このようにして構成されたパネル体２０ａの上端枠２５には、Ｌ字形の連結片２３が予め上端枠２５に形成された一対のネジ孔（図示略）に２本のボルト２３ｂを介して固定されている。この連結片２３には後述において説明するパネル体２０ａを第２フレーム部材６に取り付けるための連結孔２３ａが形成されている。

【００３９】

パネル体２０ａの下端枠２６の両端に連結されたコーナ連結部材２７には、螺合溝２７ｃが形成されており、パネル体２０ａの高さ調節を行う調整部材であるジャッキボルト２８が螺合されている。この左右下端に設けられたジャッキボルト２８を介して、パネル体２０ａが支持されるようになっている。なお、ジャッキボルト２８の下端部は、前述の床面７上に敷設された下部受材３５の上端に形成された溝条３５ａ内に載置可能な形状になっている（図２参照）。

【００４０】

上記において説明したパネル体２０ａを共有空間構造体１に取り付けるには、図６に示されるように、上端枠２５に設けられた一対の連結片２３を第２フレーム部材６の下向凹溝６ｄに挿入させ、上端枠２５が第２フレーム部材６に水平になるように持ち上げていき、下端枠２６の両端部のコーナー連結部材２７に設けられたジャッキボルト２８を下部受材３５の溝条３５ａに嵌合させる。

【００４１】

このように、ジャッキボルト２８の下端を下部受材３５の溝条３５ａに嵌合させるだけで、パネル体２０ａの設置場所の位置合わせの調整を行う必要がなく、パネル体２０ａを容易に下部受材３５に取り付けることができるとともに、ジャッキボルト２８の下端の嵌合により下部受材３５からパネル体が外れる恐れもない。このようにポール３ａ方向に向かってパネル体２０ａを端部連結部材３０に当接する位置まで移動させることで取り付けが完了する。同様の取付手順で共有空間構造体１の枠体にパネル体２０ｂとパネル体２０ｃが取り付けられ、本実施例の共有空間構造体１が構成される。

【００４２】

ついで、ポール３ａ、３ｄと、フレーム４１と、下部受材３５との連結により構成される共有空間構造体１の枠体に取り付けられたパネル体２０ａ、パネル体２０ｂ、パネル体２０ｃの高さ調整及び固定方法について、パネル体２０ａを中心に説明する。なお、パネル体２０ｂ、パネル体２０ｃもパネル体２０ａの高さ調整及び固定方法と同様のため説明を省略する。

【００４３】

図７（ａ）に示されるように、パネル体２０ａは、床面７に敷設される下部受材３５の溝条３５ａに嵌合されるジャッキボルト２８を介して支持され、連結片２３が第２フレーム部材６の下向凹溝６ｄ面に支持され取り付けられている。この取り付け状態では、連結片２３が下向凹溝６ｄに遊嵌されている状態で不安定である。

【００４４】

そこで、ジャッキボルト２８を回動させながら、パネル体２０ａの高さを徐々に上方に上げていき、連結片２３の形成される連結孔２３ａを第２フレーム部材６のネジ受溝６ｅに形成される連通孔６ａに重なる位置、すなわちフレーム４１とパネル２０ａとを当接させる位置まで上昇させていく。

【００４５】

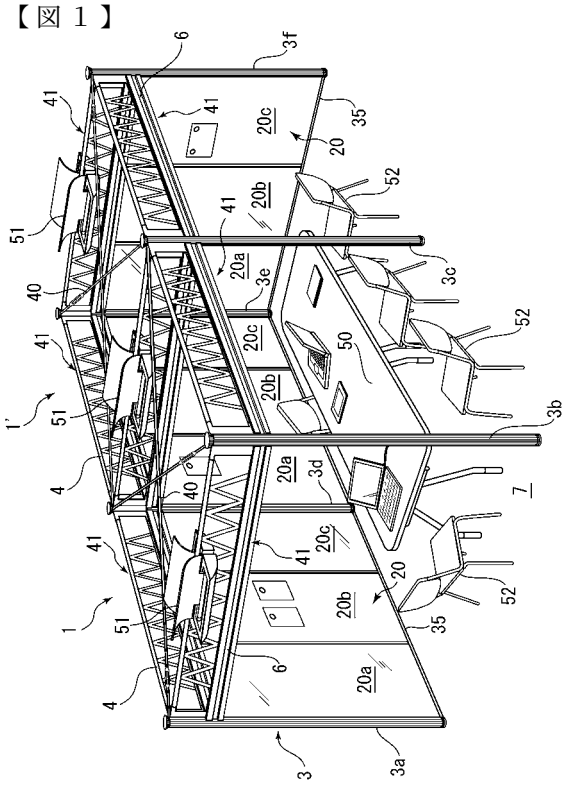
そして、図７（ｂ）に示されるように、ジャッキボルト２８の回動によって、連結孔２３ａと連通孔６ａが重なった位置に到達した後、ボルトＢを連通孔６ａに連通させて、連結孔２３ａに螺合され、連結片２３が第２フレーム部材６に連結でき、パネル体２０ａの固定が行われるので、パネル体２０が安易に移動したり、取り外れてしまうことがなく、安定してフレーム４１が支持される。その後、ネジ受溝６ｅにキャップ６ｂが係合されて外部からボルトＢを遮蔽する。

【００４６】
このように、上端枠２５、下端枠２６、左右の側端枠２４、これらを連結するコーナー連結部材２７から構成される矩形状の枠体によって、周縁の強度を高めたパネル体２０の下端位置に設けられたジャッキボルト２８を調整することによってパネル体２０を上下動させ、フレーム４１とパネル体２０上端との隙間の調整を行いながら、パネル体２０の上端をフレーム４１に当接させるため、当接荷重を均等にできるばかりか、パネル体２０の取付作業も容易となる。
【００４７】
以上に説明したパネル体２０の構造及び共有空間構造体１への取り付けによって、ポール３とフレーム４１と下部受材３５とで囲まれた面を複数のパネル体２０ａ、２０ｂ、２０ｃによって閉塞することで一枚の壁面として構成されるので、ポール３の垂直度と、フレーム４１や下部受材３５の水平度を保つことができ、共有空間構造体１の自立安定度をさらに高めることができる。
【００４８】
したがって、図８に示されるように、共有空間構造体１は、角部のポール３、と左右のフレーム４１と下部受材３５とで構造が安定化するのみでなく、左右の下部受材３５と左右のフレーム４１との間に上下に張られたパネル体２０によって、少なくとも下部受材３５とフレーム４１との水平状態を確保できる。
【００４９】
さらに、角部にあるポール３の垂直度が確保されるので、ポールを支持するための大きなベース部材を用いることなく、安定的に自立し且つ強度的にも充分な共有空間構造体１が立設でき、外部からの外圧にも強い共有空間構造体１を構成することができるとともに、共有空間構造体１の床面７に対する占有敷設面を最小限に留め、共有空間を最大限利用可能とすることができる。
【００５０】
以上、本発明の実施例を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれ、例えば上記実施例では、下部受材３５に溝条３５ａを設けることで、パネル体２０の設置場所の位置合わせと位置固定を行えることから好ましいが、本発明はこれに限定されるものではなく、下部受材３５の上端部に凸条を設けてパネル体２０の設置位置として位置固定させるようにしても良い。
【００５１】
また、上記実施例では、ジャッキボルト２８によってそれぞれのパネル体２０の高さを調整できることから好ましいが、本発明はこれに限定されるものではなく、パネル体２０を支持することが可能な部材であれば、調整部材として他の構成を備えるようにしても良い。
【００５２】
また、上記実施例では、連結片をボルトＢを介してフレーム４１に固定し、パネル体２０を共有空間構造体１に取り付けられることから好ましいが、本発明はこれに限定されるものではなく、他の連結方法をもちいてパネル体２０を共有空間構造体１に固定させ取り付けても良い。
【００５３】
また、上記実施例では、共有空間構造体１における隣り合うポール３とフレーム４１、そして下部受材３５とで囲まれた面に複数のパネル体２０（パネル２０ａ、パネル２０ｂ、パネル２０ｃ）が設けられているが、本発明はこれに限定されるものではなく、一枚からなるパネル体２０をもちいて、共有空間構造体１の面を閉塞するようにしても良い。
【図面の簡単な説明】
【００５４】
【図１】本発明の共有空間構造体の全体斜視図である。
【図２】ポール、フレーム、下部受材、端部連結部材の分解組立斜視図である。

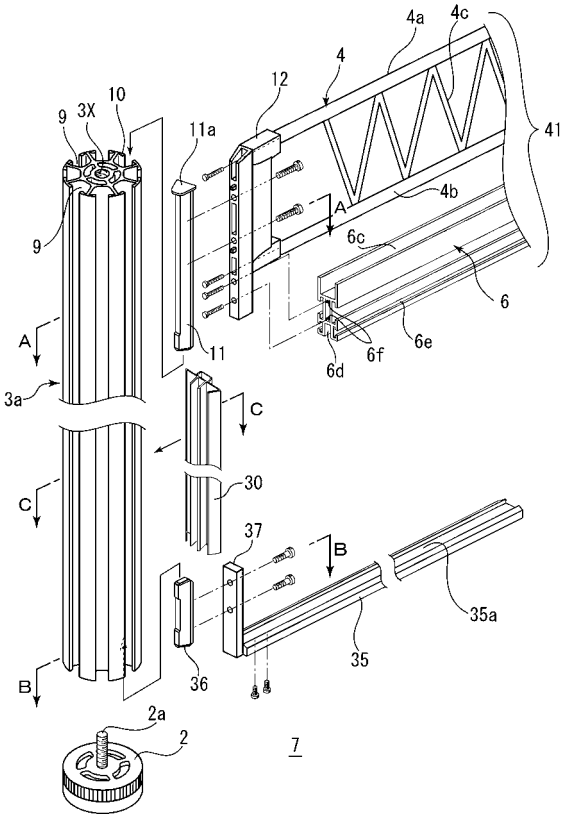
【図３】（ａ）は、図２に示すポールにフレームが取り付けられたＡ－Ａ平面断面図である。（ｂ）は、図２に示すポールに下部受材が取り付けられたＢ－Ｂ平面断面図である。
【図４】図２に示すポールに端部連結部材が取り付けられたＣ－Ｃ線の平面断面図である。
【図５】（ａ）は、パネル体の正面図である。（ｂ）は、パネル体の分解組立正面図である。
【図６】共有空間構造体にパネル体を取り付ける取付過程を示す正面図である。
【図７】（ａ）は、図６に示すＤ－Ｄ線の縦断面図である。（ｂ）は、フレームと下部受材に取り付けられたパネル体の固定手順を示す縦断面図である。
【図８】パネル体による共有空間構造体の安定強度を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００５５】
１、１’　共有空間構造体
２　アジャスタ
２ａ　ネジ部材
３　ポール
３ａ、３ｂ、３ｃ、３ｄ、３ｅ、３ｆ　６本の各ポール
３Ｘ　雌ネジ部
４　第１フレーム部材（フレームの一部）
４ａ　アッパービーム
４ｂ　ローワビーム
４ｃ　中間材
６　第２フレーム部材（フレームの一部）
６ａ　連通孔
６ｂ　キャップ
６ｃ　上向凹溝
６ｄ　下向凹溝
６ｅ　ネジ受溝
６ｆ　ボルト孔
７　床面
８　取付ネジ
９　溝部
９ａ　開口
１０　係止片
１１　取付材
１１ａ　係止頭部
１２　止着部材
２０　パネル体
２０ａ　パネル体
２０ｂ　パネル体
２０ｃ　パネル体
２２　パネル板
２３　連結片
２３ａ　連結孔
２３ｂ　ボルト
２４　側端枠（枠体の一部）
２４ａ　パネル溝
２４ｂ　溝条
２４ｃ　接続穴

２５　上端枠（枠体の一部）
２５ａ　パネル溝
２５ｃ　接続穴
２６　下端枠（枠体の一部）
２６ａ　パネル溝
２６ｃ　接続穴
２７　コーナ連結部材（枠体の一部）
２７ａ　パネル溝
２７ｂ　連結棒
２７ｃ　螺合溝
２７ｅ　連結ボルト
２８　ジャッキボルト（調整部材）
２９　パネル本体
３０　端部連結部材
３０ａ　硬質部
３０ｂ　軟質部
３０ｃ　係止爪
３５　下部受材
３５ａ　溝条
３６　取付材
３７　止着部材
４０　線材
４１　フレーム
５０　テーブル
５１　照明灯
５２　椅子
Ｂ　ボルト

【図１】

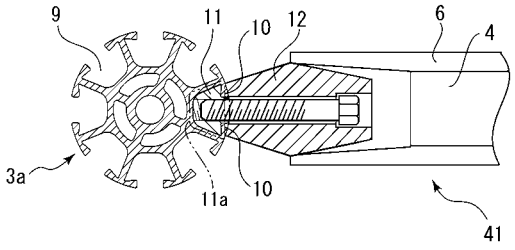

6
3f
41
20c
35
20
52
20b
51
20a
3e
3c
40
50
1'
3b
4
3d
7
1
3
3a

【図２】

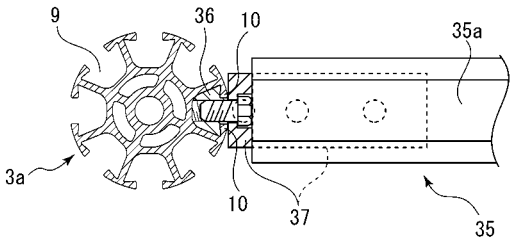

4a
4c
4
12
10
9
3X
11a
41
4b
A
6c
6
6e
6f
6d
11
3a
C
30
37
B
35a
35
36
2a
2
7

【図３】

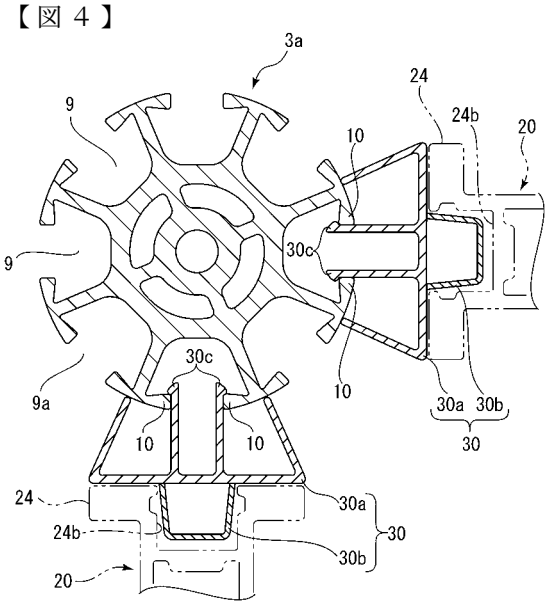
（ａ）


9
11
10
12
6
4
3a
11a
41

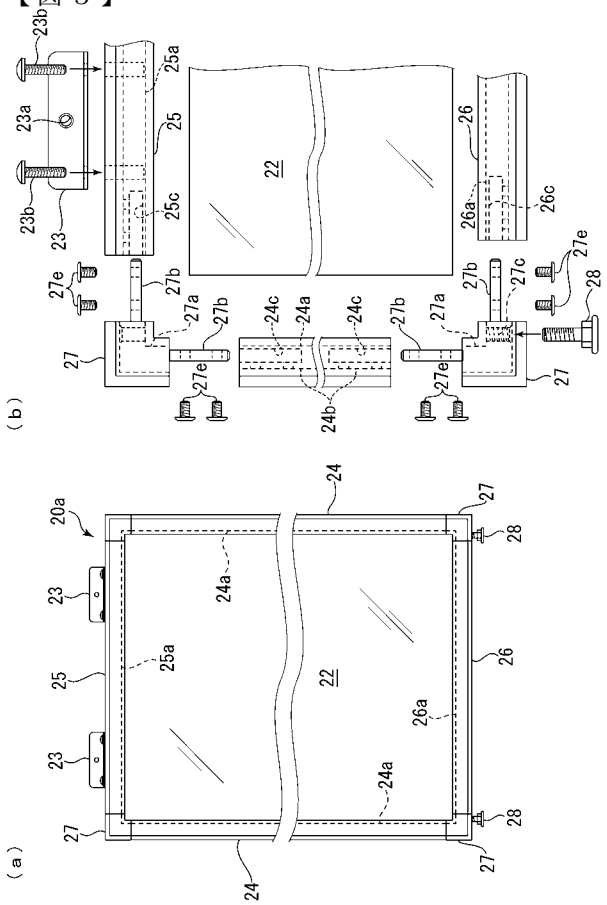
（ｂ）


9
36
10
35a
3a
37
35

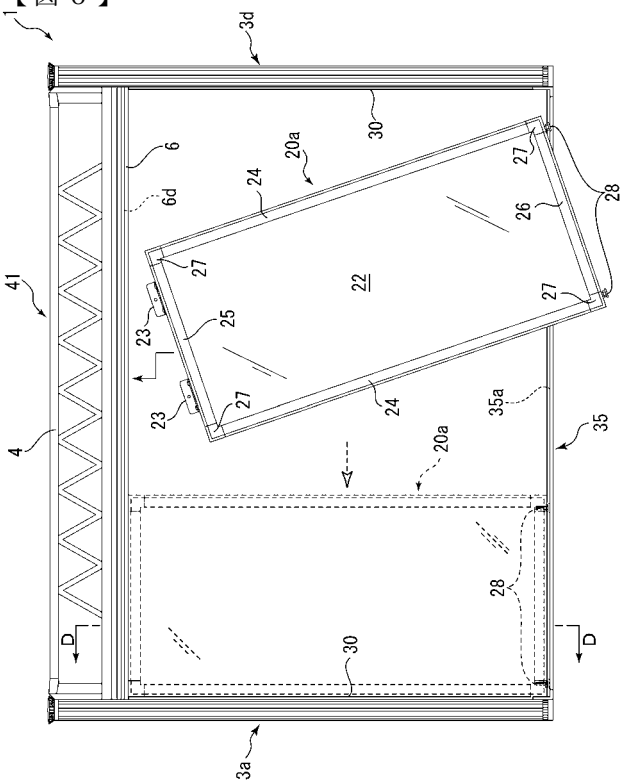
【図４】


3a
24
24b
20
9
10
30c
9a
30a
30b
30
24
24b
20

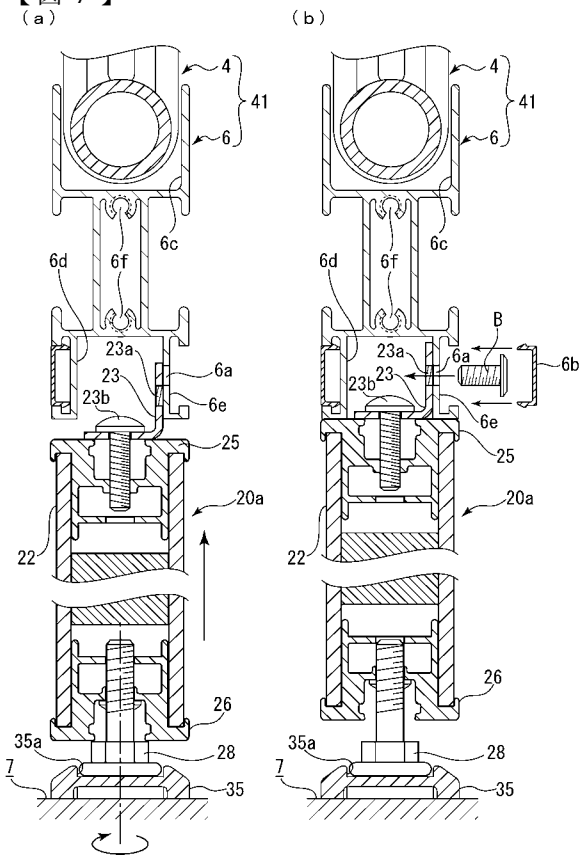
【図５】



【図６】



【図７】



【図８】

